

令和元年度（2019年度） エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業 実施結果概要

釧路総合振興局環境生活課

1. 契約期間・実施時期・場所

(1) 契約期間 令和元年8月29日～令和2年2月28日

(2) 実施時期

地区名	年月日	作業内容
春採湖地区	令和元年10月25日	罠いわな設置
〃	令和元年11月29日	罠いわな撤去
高山地区	令和元年11月29日	罠いわな設置
〃	令和2年2月26日	罠いわな撤去

(3) 実施場所

春採湖地区 釧路市春採3丁目（メッシュ番号 ソ333）

高山地区 釧路市高山30（メッシュ番号 ソ332）

2. 実施状況

(1) 捕獲回数 23回

(2) 捕獲頭数 55頭 春採湖地区 20頭、高山地区 35頭

（オス 13頭、メス 42頭）

年月日	捕獲頭数	捕獲地区	摘 要
11月	25頭	春採湖・高山	春採湖 20頭、高山 5頭
12月	15頭	高山	
1月	11頭	高山	
2月	4頭	高山	

\* 上記捕獲個体 55頭全て、一時養場へ搬入し食肉用として活用

3. 事業実施にあたり考慮した事項

- ・安全管理計画の策定
- ・関係者・機関との連携、事前打ち合わせ
- ・必要資機材と実施に要する人員、実施期間、実施時間
- ・実施地域における推定生息数、生息場所（季節移動）、捕獲頭数
- ・捕獲従事者数、捕獲者の意識と技術、捕獲実施時間

#### 4. 囲いわな設置場所





囲いなし設置作業・春採湖地区 令和元年 10月25日



\*追込み部（象の鼻）設置 一部整地



\*象の鼻（追込み部）設置



\*誘引部設置作業



\*誘引部設置作業



\*落としゲート設置作業



\*落としゲート設置完了





\*まるみえホカクン・ソーラーパネル



\*まるみえホカクン・ソーラーパネル



\*まるみえホカクン・主装置



\*まるみえホカクン・浸入検知センサー



\*足場から見た囲いわな誘引場



\*囲いわな完成



囲いわな撤去作業・春採湖地区 令和元年 11 月 29 日



\* 囲いわな撤去作業



\* 囲いわな撤去作業



\* 囲いわな撤去作業



\* 囲いわな撤去作業  
追込み部は解体しないで高山地区へ



\* 囲いわな撤去作業完了



\* 囲いわな撤去後の春採湖地区



囲いわな設置作業・高山地区 令和元年 11 月 29 日



\*追込み部（象の鼻）設置作業



\*単管パイプ設置作業



\*ソーラーパネル設置作業  
仮設電源引込作業終了後 100V仕様



\*壁部設置作業



\*落としゲート設置作業



\*囲いわな完成

仮設電源引込作業・高山地区 令和元年 12月27日



\* 仮設電源引込作業  
 (有)佐藤電気へ委託、高所作業車にて  
 電柱トランスより 100V 電源引込



\* 仮設電源引込作業  
 使用許可済の自家用柱を利用し電線  
 を設置



\* 仮設電源引込作業  
 困いわな壁部に設置した 100V 用  
 メーター



\* 仮設電源引込作業  
 電源コード等に支障が出た場合のためブレーカー設置対応  
 \* 仮設電源は 2月25日に撤去済



囲いわな撤去作業・高山地区 令和2年2月26日



\* 囲いわな撤去作業



\* 囲いわな撤去作業



\* 囲いわな撤去作業



\* 囲いわな撤去作業



\* 囲いわな撤去後の高山地区



\* 囲いわな撤去後の高山地区



## 事業実施手順



監視カメラ設置、今事業より2台の監視カメラで囲いわな内部及び囲いわなゲート付近が監視出来る仕様とした。

これにより、侵入検知前に囲いわな付近にいる個体を確認出来るので捕獲効率が上がると思われる（上図はパソコンでの画面）



まるみえホカクン落としゲート・電子トリガー、これにより遠隔でパソコン及びスマートホン獲ボタンでマグネットが外れゲートが落ちる



通常はまるみえホカクンでゲートを落とし捕獲した翌日、捕獲個体の回収及び運搬作業実施。

＊夜間捕獲して再度捕獲が可能と思われた場合、夜間に捕獲個体を象の鼻に追込み、ゲートを再解放し捕獲を実施する事もある。

但し、春採湖地区はこの手法も可能であるが、高山地区は開場時間が定められていて、翌日回収のみ（開場時間9:00～16:30）



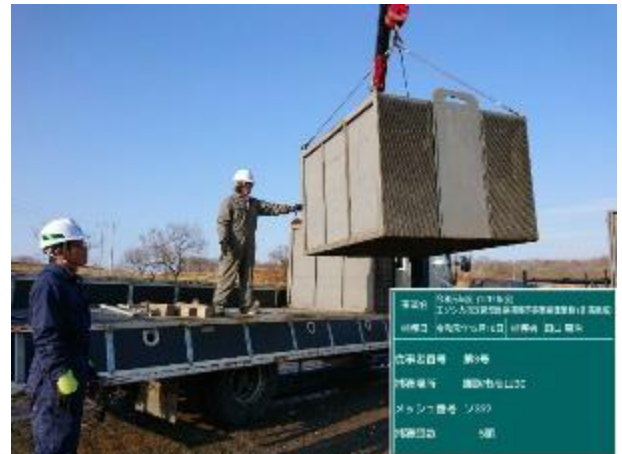
象の鼻へ追い込む際には、安全を考え盾を使用し作業にあたる。

（盾の他に刺叉も用意している）

＊やむを得ず、止め刺しする場合も考えられるので、電気止め刺し機及び低圧ゴム手袋、低圧長靴を用意している。



象の鼻内（追込みスペース）へ追い込んだ後、GPS 機能付きのカメラ等で捕獲記録を残す、撮影にはスマートフォンを使用し電子黒板で記録



象の鼻より輸送箱に入れトラックに積み込み、一時養鹿場へ運搬する。捕獲個体がメスの場合はこの複数頭用の輸送箱に入れる。オスの場合は、角で捕獲個体を傷つけるため、1 頭用の輸送箱に入れ運搬する。



上画像がオス用の輸送箱



運搬してきた輸送箱を降ろす



運搬してきた輸送箱を降ろす



捕獲した個体毎に体重を測定





1 頭ずつテレサビリティのために  
識別耳冠をつける。



体重測定、識別耳冠をつけたエゾシカ  
を一時養鹿場へ入れる。

\*本事業で捕獲した 55 頭は移送中も問題なく、また一時養鹿場への搬入後も問題なく現在も一時飼育されている。今後、食肉用として有効活用する。原皮についても函館の業者が引き取り毛皮として、また食肉処理後の残滓の一部（内臓）についても鶴居村役場にてカラスわな用の餌として有効活用となる。

春採湖地区・囲いわな撤去後の令和 2 年 1 月までの定点カメラ





\*春採湖地区の群れの頭数、24、5頭と定点カメラ画像より推測していた、20頭捕獲したので残り4、5頭が撤去後も確認できたが、令和2年1月31日まで定点カメラを設置し確認のところ、令和2年1月23日以降は定点カメラに個体が映らなくなった。



\*高山地区の群れの頭数も定点カメラで春採湖地区同様25頭位と推測していたが、35頭捕獲後、定点カメラで5頭のオスの群れが確認出来た。



\*市街地での囲いわなによる捕獲は、捕獲開始時は複数等捕獲出来るが捕獲回数が多くなると、野生のエゾシカ同様に1頭ずつの捕獲となり、徐々に囲いわなに侵入して餌を食べても直ぐ出て行ってしまい捕獲が困難となる。定点カメラでも確認出来る様に警戒心の強いオスが捕獲出来なくなる。

市街地での囲いわなによる捕獲を本事業で初めて実施したが、非積雪時に関わらず11月から捕獲が出来た。今年度の様に雪不足の影響で、各地域で実施している囲いわなによる野生のエゾシカ捕獲頭数は少なかった。

市街地でのエゾシカの囲いわなによる捕獲は野生のエゾシカと違い、積雪に左右されず捕獲が可能であり有効であったと考えられる。